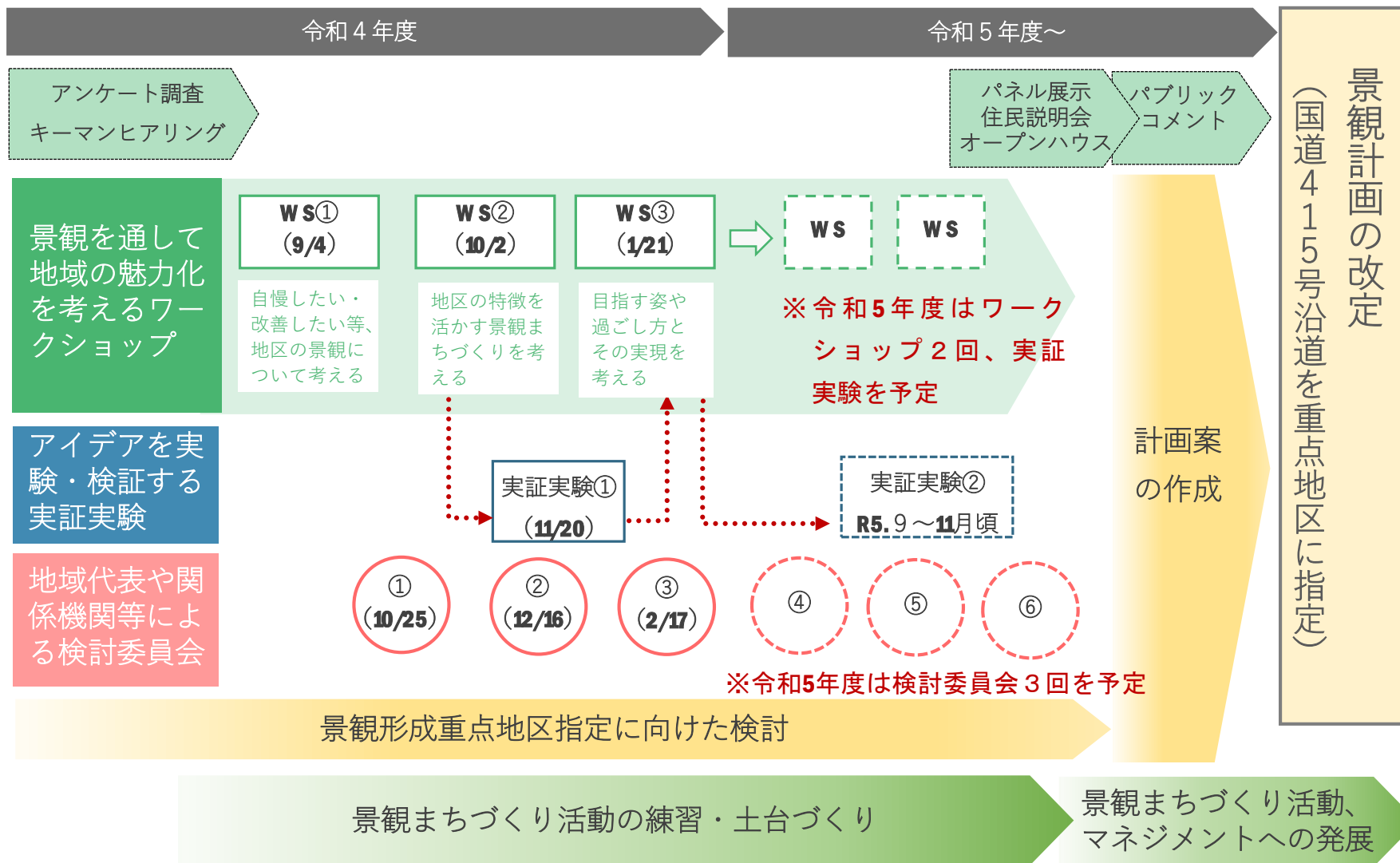


令和 5 年度の進め方、スケジュール

検討スケジュール

- 令和5年度は、景観重点地区指定検討委員会3回、ワークショップ2回、実証実験1回を予定しています。



令和5年度の検討について

景観重点地区指定検討委員会

令和4年度

- ・ 背景や目的、景観の特性
- ・ 目指したい沿道の姿や過ごし方（景観まちづくりのビジョン）
- ・ ビジョンを実現するための景観まちづくりのテーマ

地域住民等意見把握

- ・ アンケート
- ・ キーマンヒアリング
- ・ ワークショップ
- ・ 景観まちづくり実証実験
- ・ オンラインプラットフォームの運用



令和5年度（3回の開催を予定）

◇景観法の活用

- ・ 景観法の制度（届出や資源活用など）を活かした取り組みの検討
- ・ 法の仕組み＋市独自の取り組みにより、実行力を高めることも合わせて検討

◇他主体の協働による実現化・推進方策

- ・ 市と市民や事業者が協働して景観まちづくりや景観マネジメント（良好な景観の維持・継続）を進めていくための方策など

- ・ ワークショップ
- ・ 景観まちづくり実証実験
- ・ オンラインプラットフォームの運用

- ・ パネル展示、住民説明会、オープンハウスなどの周知、意見収集方法の検討

- ・ パブリックコメント



令和5年度の検討について

- 沿道、地域にお住まいの住民の皆さまを対象に、取り組みについて周知・共有し、意見を収集、計画案へ反映していく方法を検討します。

(周知、意見収集方法の例) ※具体的には今後検討



オンライン上の情報発信・意見収集



[住民説明会のイメージ]
沿道の住民を対象とした説明会の実施



[パネル展示・オープンハウスのイメージ]
イベントや公共施設や商業施設等、幅広い世代が集まる場
所で実施



庁舎ロビーでのパネル展示、意向把握
(シールにより投票)の例

令和5年度のワークショップ、実証実験について

令和4年度

- ・各回で活発な意見交換、魅力や課題、多様なアイデアが出された
- ・任意で募集した実証実験に積極的に関わってくれる地域の方、高校生もいた
- ・一方で、参加者が回を進めるごとに減少（①26名→②25名→③13名）
- ・高校生は応募があった人数に対して実際の参加者が少なく、発言も少ない傾向に



令和5年度（案） 自分ごととして、考える・実践してみる

- ・まちで〇〇してみたい想いを持つ人の発掘
- ・自分にできることから考える
- ・小さくても自分たちが欲しい場づくりの実践
(進捗、企画・運営メンバーの都合によって実践の時期がズレてもOKとする)

都市計画課
サポート

場所
沿道の空き地・空
き家／公共のオー
プンスペース

もの・資金
物品や必要な備品
購入費の支援

ひと
キーマン／団体や事業者／
大学／まちづくりコンサル
タント

(募集方法案①)

令和4年度WSから、ある程度企画内容を決めて、興味関心のあるものにコミットしてもらおう

- ・みどりを増やそうプロジェクト
- ・子どもと楽しむ場づくりプロジェクト
- ・とっておきの風景探しプロジェクト
- ・まち巡りルートづくりプロジェクト
- ・放課後 学び・あそび・場づくりプロジェクト など

(募集方法案②)

目標やコンセプトを定めて、自分たちがほしい場所、したいことをプロジェクト化する

- ・国道415号の居場所づくりプロジェクト
- ・将来（例えば10年後）氷見に住んでいたらこうあって欲しいプロジェクト
- ・氷見高校と国道415号をつなぐプロジェクト など

(募集方法・進め方の例) ※具体的には今後検討

